

◎エホチール注射液 [注]

【重要度】 【一般製剤名】 エチレフリン塩酸塩 Etilefrine Hydrochloride 【分類】 昇圧剤

【単位】 ◎10mg/A [1mL]

【常用量】 ■内服：1日15～30mg/日 ■注射：1回2～10mg [0.2～1mL]

【用法】 ■内服：分3 ■注射：筋注、皮下注、静注

【透析患者への投与方法】 減量の必要なし (5)

【保存期 CKD 患者への投与方法】 減量の必要なし (5)

【特徴】 フェニレフリンの N-アルキル誘導体で交感神経刺激作用 (α , β 刺激) により、心拍出量を増加させる。静脈緊張度の改善により、循環血流量を増加させ、血圧を上昇させる。心拍出量増加、末梢血管抵抗の減少 (少量では低下)、循環血液量の増加作用を示し、血圧を上昇させる。血圧は心拍出量増加の因子がより強く作用し昇圧する。タキフィラキシー現象は認められない。心拍出量及び分時拍出量を増大させて血圧を上昇させるが心拍数には影響しない。末梢血管抵抗を減弱してその循環を改善する。 (α 1 刺激：血管収縮、 β 1 刺激：心筋収縮)

【主な副作用・毒性】 心悸亢進、頭痛、口渇、悪心など

【吸収】 小腸で完全に吸収される (Eur J Clin Pharmacol 9: 179-187,1975)

【F】 55% (1) 35%、小腸壁において初回通過効果を受けやすい。ジヒドロエルゴタミンを同時投与すると著明に上昇する (Eur J Clin Pharmacol 22: 463-467,1982) 初回通過効果を受け 55% (Eur J Clin Pharmacol 9: 179-187,1975)

【tmax】 内服：20～30min (1)

【代謝】 主に phenolic sulphate を形成する抱合体になる (Eur J Clin Pharmacol 9: 179-187,1975) グルクロン酸抱合または硫酸抱合を受ける (1)

【排泄】 尿中未変化体排泄率 7% [po, 24hr まで] (1) 尿中回収率 78%、尿中未変化体排泄率 28% [iv, 24hr まで] (1) 【CL】 954.3±131.3mL/min [iv] (1) 腎 CL 150.6±9.8mL/min [iv] (1)

【t1/2】 2hr [iv] (1) 2hr (Eur J Clin Pharmacol 9: 179-187,1975)

【蛋白結合率】 23% (1)

【Vd】 160L/man [iv] (1)

【MW】 217.69

【透析性】 分布容積が大きいため、透析によって除去されにくいと思われる (5) 資料なし (1)

【TDM のポイント】 TDM の対象にはならない 【O/W 係数】 データなし (1)

【相互作用】 麦角アルカロイド併用で血圧上昇 (1) ハロタン：不整脈の誘発 (1)

【更新日】 20210717

※正確な情報を掲載するように努力していますが、その正確性、完全性、適切性についていかなる責任も負わず、いかなる保証もいたしません。本サイトは自己の責任で閲覧・利用することとし、それらを利用した結果、直接または間接的に生じた一切の問題について、当院でいかなる責任も負わないものとします。最新の情報については各薬剤の添付文書やインタビューフォーム等でご確認ください。

※本サイトに掲載の記事・写真などの無断転載・配信を禁じます。すべての内容は、日本国著作権法並びに国際条約により保護されています。